

2022年3月期 第2四半期 決算説明会 (2021年4月1日～9月30日)



2021年11月5日
株式会社シモジマ

2022年3月期 上半期 当社の概況・トピックス

1. 2022年3月期 上半期 概況
2. 2022年3月期 上半期 トピックス

2022年3月期 上半期決算報告と通期予想

1. 決算概要
2. 販売チャネル別 売上 前年同期増減
3. 商品セグメント別 売上 前年同期増減
4. 営業利益の増減要因
5. 財務状況
6. 2022年3月期 設備投資
7. 配当の状況
8. 2022年3月期 通期業績予想

シモジマグループの成長と発展に向けて

1. 成長と発展に向けた基本方針
2. シモジマグループパーパス
(経営理念・社是・社章)
3. シモジマグループ 長期ビジョンと長期方針
4. 【1】事業の拡大
シモジマ型オムニチャネル政策の拡大
5. 【2】経営基盤の強化
シモジマグループ事業系統図(連結対象)
グループ企業との協業
6. 【3】経営体制の強化
SDGs 持続可能な社会に向けて



※写真は当社オリジナル商品 クリスマス柄紙袋と不織布袋

2022年3月期 上半期 当社の概況・トピックス



2021年11月5日
株式会社シモジマ

1. 2022年3月期 上半期 概況



新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、全国的に緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が長期化したことにより、個人消費が低迷し企業活動も制限を受け、景気は極めて厳しい状況にありました。

当社におきましても対面営業の自粛を余儀なくされ、またイベント関連資材の需要が激減し、さらにインバウンド需要は回復せず大きく影響を受ける結果となりました。

当社グループが属する業界においても、世界的な環境問題への意識高揚による脱プラスチック化、レジ袋有料化などの事業環境の変化やコロナ禍の外出自粛によるインターネット通販の拡大、テイクアウト・フードデリバリー需要の増加など、消費行動の変化が従来以上に大きくなっています。

このような状況のもとで、当社グループは基本理念である「お客様のニーズに迅速かつ的確にお応えする」ことを基本に、事業の拡大、経営基盤の強化、経営体制の強化に取り組んでまいりました。

今期は2022年4月施行予定の「プラスチック資源循環促進法」に対応した新しい環境配慮型商品の開発に着手いたしました。

2. 2022年3月期 上半期 トピックス



①新社長就任 （代表取締役社長：笠井義彦）

2021年4月1日付で代表取締役社長に就任いたしました。
社業の持続的な成長と発展を目指していく所存でございますので、
何卒宜しくお願い申し上げます。



②卓球水谷隼選手とスポンサー契約締結



2021年4月1日に、卓球男子日本代表
の水谷隼選手とスポンサー契約を締結
しました。

③昭和の大ヒットデザイン 『ストップペイル』 復刻し話題に

1970年代に発売し、主に書店や文具店で使われていた
ストップペイル柄が復刻し、ご好評を頂きました。



2022年3月期 上半期 決算報告と通期予想



2021年11月5日
株式会社シモジマ

1. 決算概要(1)



【連結】

単位：百万円

科 目	2021年3月期 上半期		2022年3月期 上半期	
	金 額	前 期 比	金 額	前 期 比
売 上 高	22,688	▲5.7%	22,427	▲1.2%
売 上 総 利 益	7,161	▲4.6%	6,995	▲2.3%
売 上 総 利 益 率	31.6%	+0.4pt	31.2%	▲0.4pt
販 管 費	7,305	▲0.4%	7,331	+0.4%
営 業 利 益	▲144	—	▲335	—
経 常 利 益	▲13	—	▲171	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲785	—	▲107	—

1. 決算概要(2)

【連結】

単位：百万円

○売上高

22,427百万円
前期比：▲261百万円 ▲1.2%

○売上総利益

6,995百万円
前期比：▲166百万円 ▲2.3%

○販管費

7,331百万円
前期比：+26百万円 +0.4%

○営業利益

▲335百万円
前期比：▲191百万円 -%

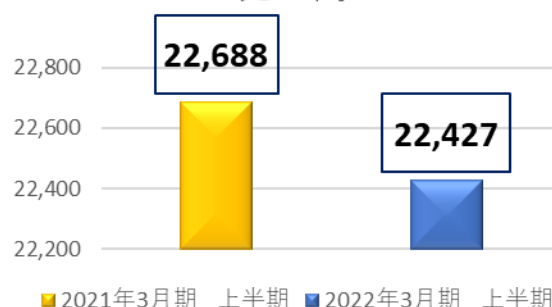
○経常利益

▲171百万円
前期比：▲158百万円 -%

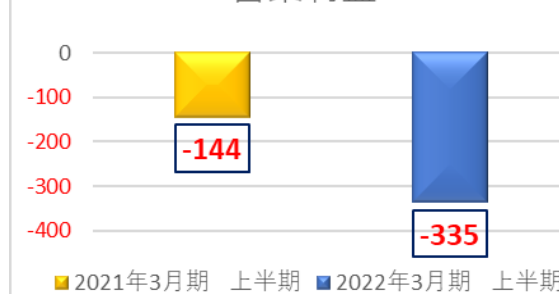
○親会社株主に帰属する四半期純利益

▲107百万円
前期比：+678百万円 -%

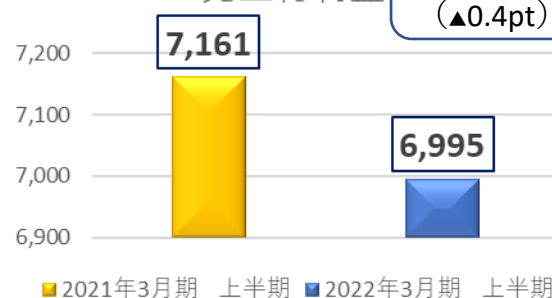
売上高



営業利益

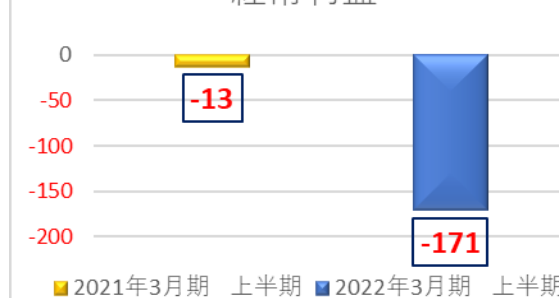


売上総利益

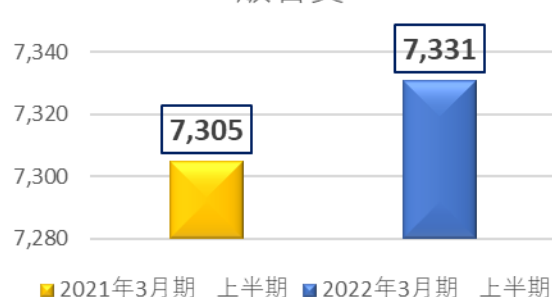


粗利率
31.2%
(▲0.4pt)

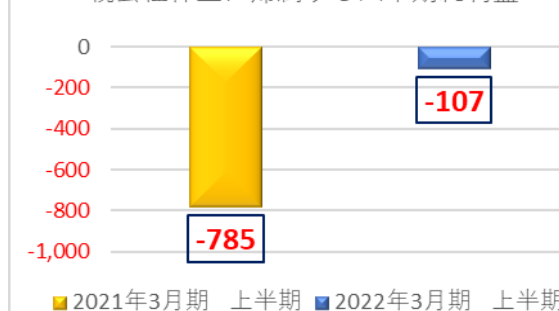
経常利益



販管費



親会社株主に帰属する四半期純利益



2. 販売チャネル別 売上 前年同期増減



○営業販売部門

16,195百万円

前期比：▲414百万円 ▲2.5%

○店舗販売部門

5,033百万円

前期比：▲185百万円 ▲3.5%

○通信販売（EC）部門

1,198百万円

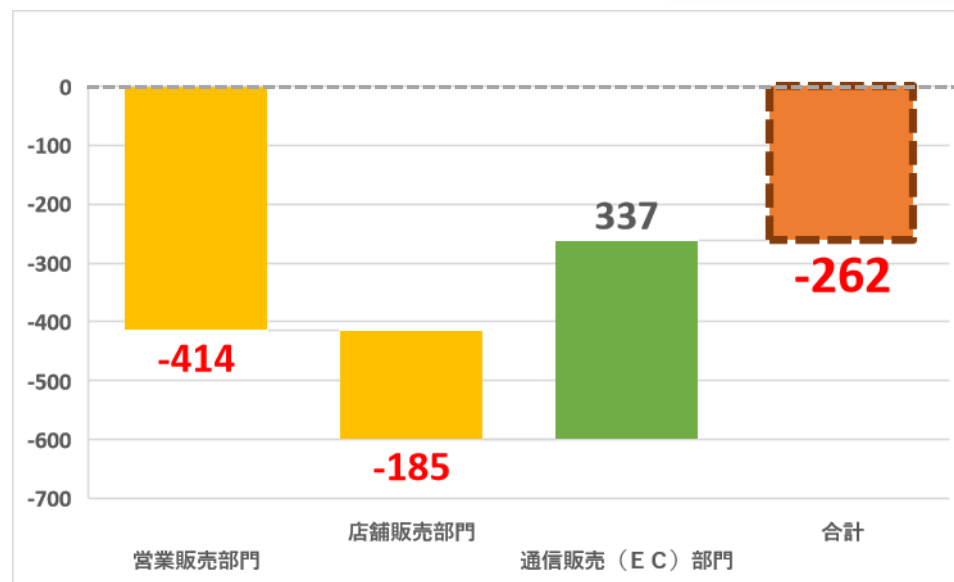
前期比：+337百万円 +39.1%

合計 22,427百万円

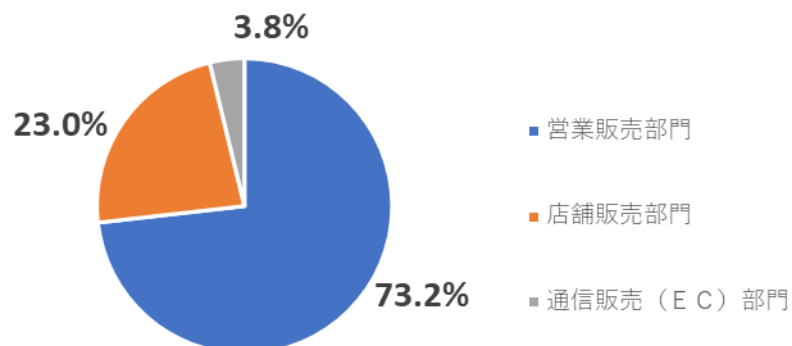
前期比 ▲262百万円 ▲1.2%

【連結】

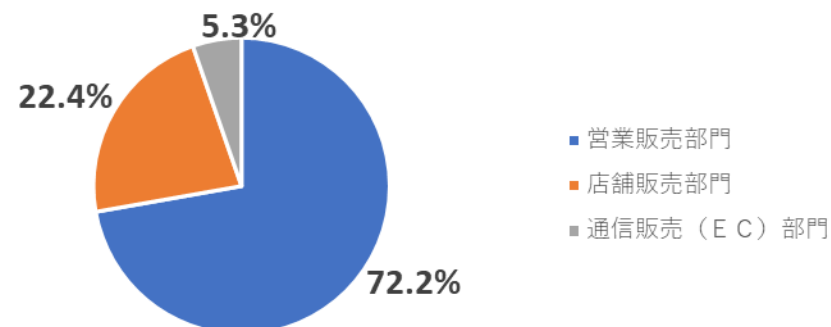
単位：百万円



2021年3月期上半期・販売チャネル別売上構成比



2022年3月期上半期・販売チャネル別売上構成比



3. 商品セグメント別 売上 前年同期増減



○紙製品事業

4,100百万円

前期比：+492百万円 +13.6%

○化成品・包装資材事業

12,677百万円

前期比：+202百万円 +1.6%

○店舗用品事業

5,648百万円

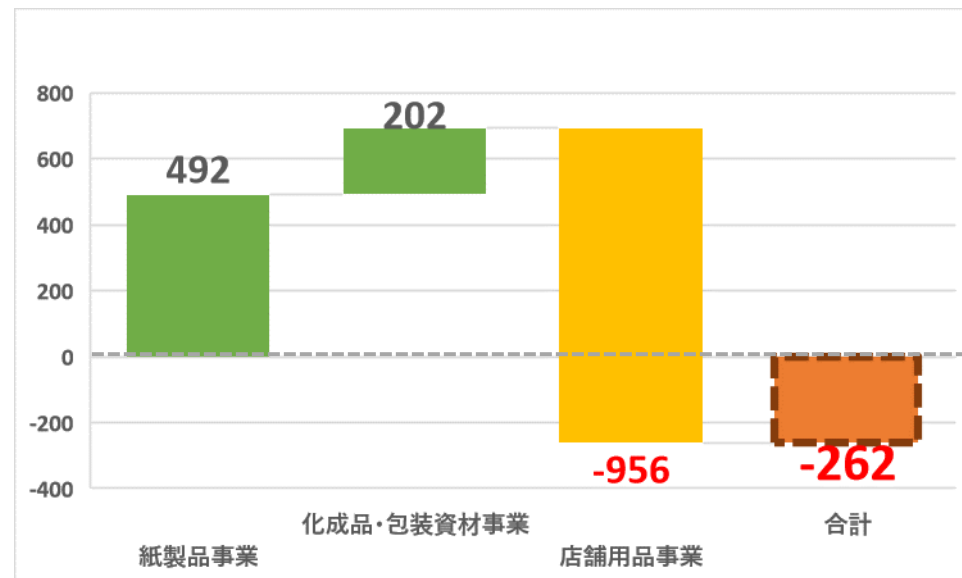
前期比：▲956百万円 ▲14.5%

合計 22,427百万円

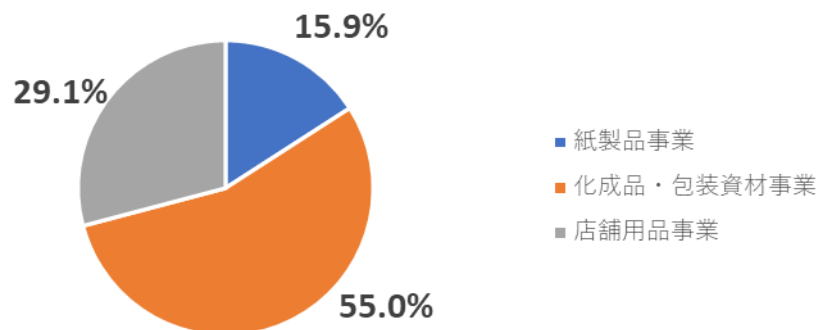
前期比 ▲262百万円 ▲1.2%

【連結】

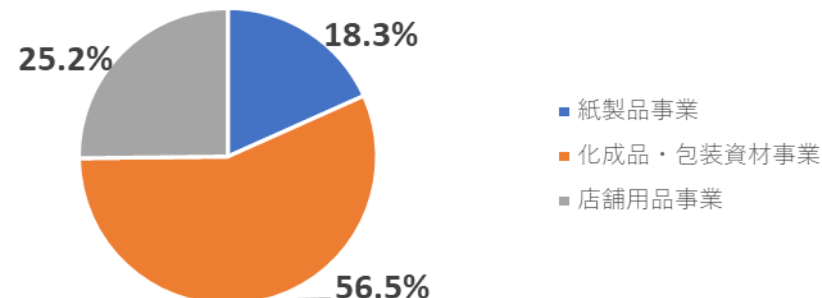
単位：百万円



2021年3月期上半期・商品セグメント別売上構成比



2022年3月期上半期・商品セグメント別売上構成比

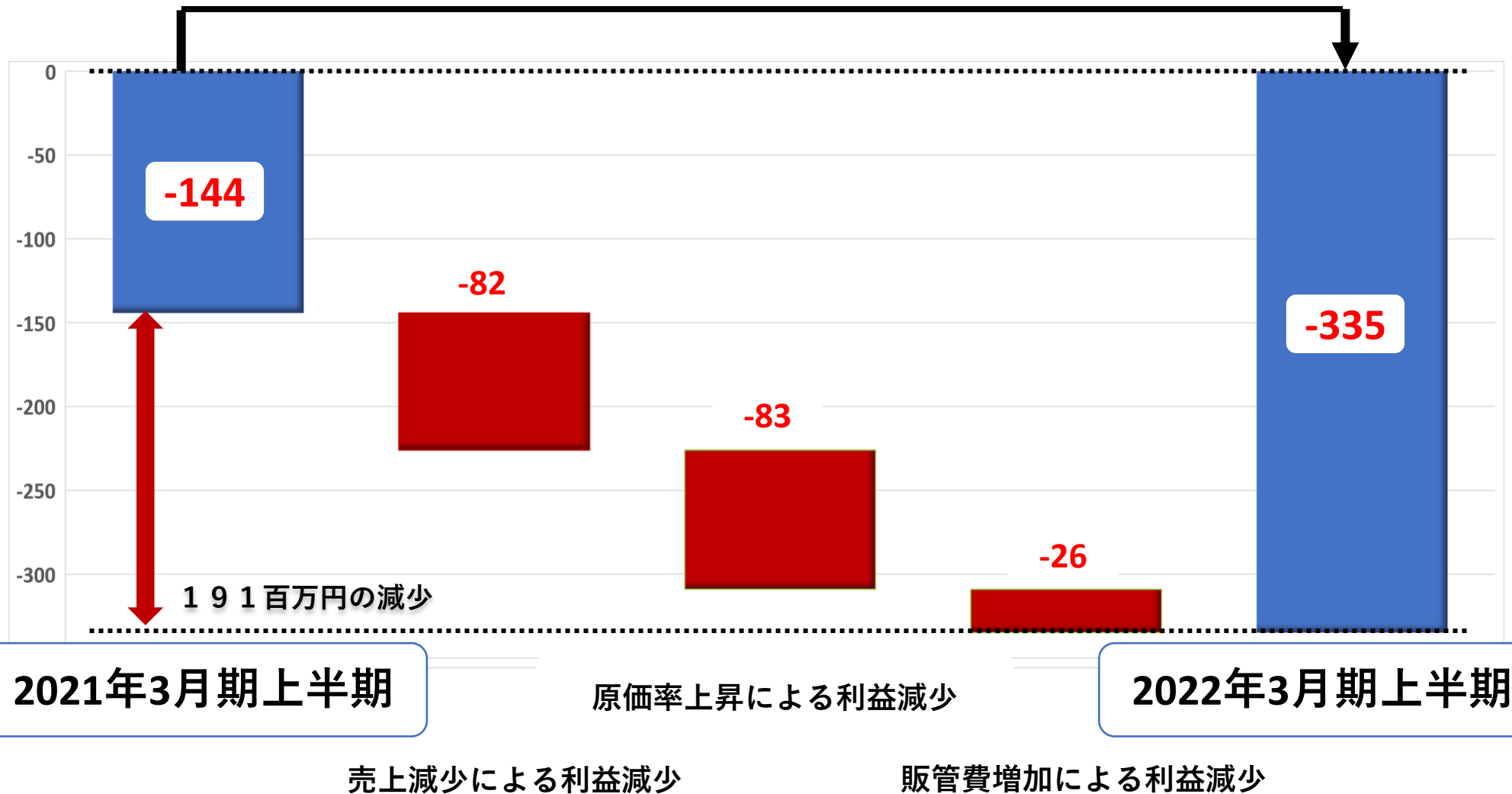


4. 営業利益の増減要因



【連結】

単位：百万円



2021年3月期上半期

原価率上昇による利益減少

2022年3月期上半期

売上減少による利益減少

販管費増加による利益減少

5. 財務状況



■ 損益計算書

【連結】

単位：百万円

勘定科目	2021年3月期 上半期	2022年3月期 上半期	増減額
売上高	22,688	22,427	▲261
売上原価	15,527	15,431	▲96
売上総利益	7,161	6,995	▲165
物流費	2,057	2,153	95
人件費	3,268	3,202	▲65
その他	1,979	1,975	▲4
販管費合計	7,305	7,331	25
営業利益	▲144	▲335	▲191
営業外収益	156	191	34
営業外費用	25	26	0
経常利益	▲13	▲171	▲157
特別損益	▲934	7	942
税金等調整前四半期純利益	▲948	▲164	784
法人税・住民税関係等	▲162	▲56	106
親会社株主に帰属する四半期純利益	▲785	▲107	677

前期固定資産の減損

5. 財務状況



■貸借対照表 （１）抜粋

【連結】

< 資産の部 >

単位：百万円

勘定科目	2021年3月末	2021年9月末	増減額
現金及び預金	7,629	6,276	▲1,353
受取手形及び売掛金	6,630	6,177	▲453
たな卸資産	5,398	5,829	430
建物・造作設備・機械設備 等	4,840	5,000	159
土地	7,762	7,762	—
ソフトウェア	1,045	946	▲99
投資有価証券	741	666	▲75
保険積立金	2,131	2,116	▲15
資産合計	38,293	36,976	▲1,317

設備投資、たな卸資産の
増加及び配当金支払い

5. 財務状況



■貸借対照表 (2) 抜粋

【連結】

< 負債の部 >

単位：百万円

勘定科目	2021年3月末	2021年9月末	増減額
支払手形及び買掛金	2,699	2,426	▲272
未払金	981	574	▲407
長期リース債務	406	363	▲42
土地再評価繰延税金負債	277	277	—
退職給付に係る負債	232	266	34
負債合計	6,067	5,217	▲850

設備投資費用

< 純資産の部 >

勘定科目	2021年3月末	2021年9月末	増減額
利益剰余金	36,255	35,864	▲390
その他有価証券評価差額金	437	385	▲52
繰延ヘッジ損益	55	18	▲36
土地再評価差額金	▲6,195	▲6,195	—
退職給付に係る調整累計額	25	21	▲3
純資産合計	32,255	31,759	▲466
負債純資産合計	38,293	36,976	▲1,317

当上半期利益のマイナス及び配当金支払い

5. 財務状況



■キャッシュフロー計算書（抜粋） 【連結】

単位：百万円

勘定科目	2021年3月期上半期	2022年3月期上半期
税金等調整四半期純利益	▲948	▲164
減価償却費	448	394
売上債権の増減額(▲は増加)	399	439
たな卸資産の増減額(▲は増加)	▲313	▲450
仕入債務の増減額(▲は減少)	▲349	▲272
法人税等の支払額	▲281	▲38
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲296	▲457
固定資産の取得による支出	▲372	▲629
固定資産の売却による収入	2	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲476	▲574
リース債務の返済による支出	▲68	▲65
配当金の支払い額	▲371	▲255
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲114	▲321
現金及び現金同等物の期首残高	7,150	7,441
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,261	6,087

設備投資（主にシステム関連）

前期：創立100周年記念配当実施

6. 2022年3月期 設備投資



投 資 項 目	計 画	上 半 期 実 績	進 捗 率
物 流 投 資	3.5億円	0.6億円	17.1%
I T 投 資	3.2億円	2.2億円	68.8%
店 舗 投 資	1.6億円	0.3億円	18.8%
そ の 他 の 投 資	0.7億円	0.5億円	71.4%
合 計	約9.0億円	約3.6億円	約40.0%

2022年3月期上半期 主な設備投資実績

< 物流投資 >

- ・ 自動倉庫
- ・ D A S 増設（D X, E C 対応）
※DAS:デジタルアソートシステム

< I T 投資 >

- ・ 基幹システムのリプレイス
- ・ W M S （D X, E C 対応）
※WMS:倉庫管理システム
- ・ 人給システム刷新

< 店舗投資その他 >

- ・ エレベーターリニューアル
- ・ 照明のL E D 化（心齋橋ビル）

7. 配当の状況



	1 株 あ た り 年 間 配 当 金		
	中 間	期 末	年 間
2021年3月期(実績)	11円00銭	11円00銭	22円00銭
2022年3月期(実績)	11円00銭	—	22円00銭
2022年3月期(予想)	—	11円00銭	

8. 2022年3月期 通期予想



【連結】

単位：百万円

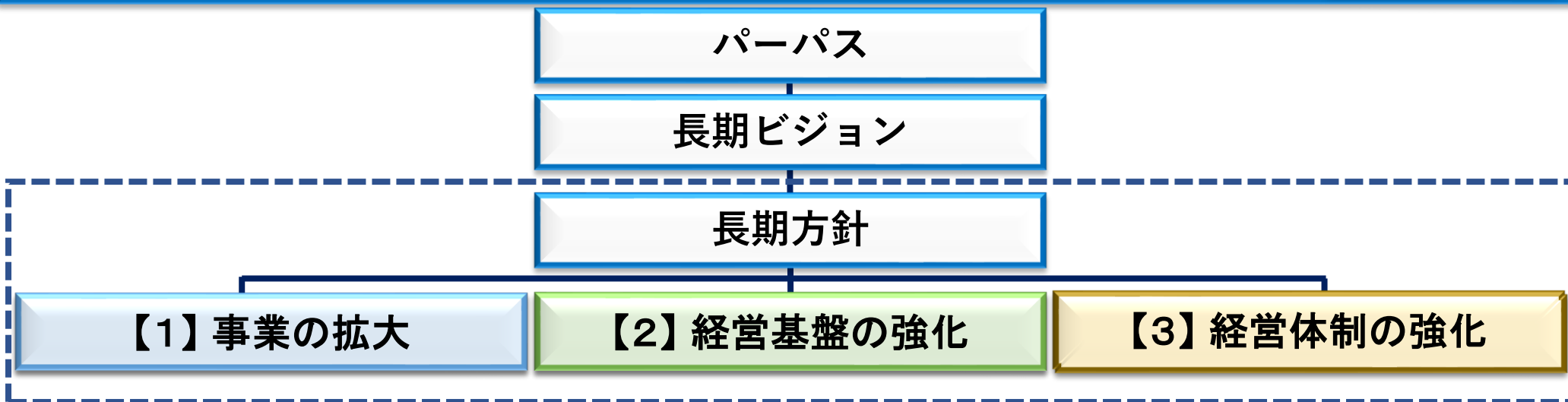
科 目	2021年3月期 実績		2022年3月期 予想	
	金 額	前 期 比	金 額	前 期 比
売 上 高	47,100	▲2.4%	47,900	1.7%
売 上 総 利 益	15,061	▲1.6%	15,200	0.9%
売 上 総 利 益 率	32.0%	+0.3pt	31.7%	▲0.3pt
販 管 費	14,786	▲0.1%	14,850	0.4%
営 業 利 益	275	▲45.5%	350	27.0%
経 常 利 益	552	▲24.6%	650	17.7%
親会社株主に帰属する当期純利益	▲331	—	390	—

シモジマグループの成長と発展に向けて



2021年11月5日
株式会社シモジマ

1. 成長と発展に向けた基本方針



事業環境分析

プラス 要因

1. 環境意識の変化（環境配慮型商品の開発・販売促進）
2. 新たな需要の創出と拡大（通販資材、個包装需要、衛生用品等）
3. アフターコロナ需要

マイナス 要因

1. 気候変動（災害リスク増加）
2. コロナウイルス変異株の脅威（長引く人流抑制による経済の停滞）
3. 業種・業態を超えた競争激化

基本方針

当社を取りまく事業環境は急速に変化しています。その変化に対応し社業の持続的な成長と発展のため、長期方針を具体性を持って実行し、長期ビジョンの実現を目指し、シモジマグループのパーパス（存在意義）を果たす事を基本方針としております。

経営理念

- 一、包装用品とこれに関連する事業を通じ快適な社会づくりに貢献する
- 一、常に顧客のニーズに応え創意工夫による市場拡大に努める
- 一、たえず経営の合理化と積極販売に努力し企業の発展を図る
- 一、社員の楽しく健康的な生活を確保する

社是

三意精神 『誠意・熱意・創意』

社章

すべてを包み込みながら拡大し続ける宇宙をモチーフとしており、社員や地域社会を含めた一体感や企業の発展性を象徴しています。



シモジマ
グループ
長期ビジョン

10年後のあるべき姿



長期方針

“パッケージ×サービス”で お客様に元気を届ける トータルパートナーを目指す

既存事業の深化と事業領域の拡大で多様な商品及びサービスを提供し、お客様を元気にしたい。
シモジマは“パッケージ×サービス”のトータルパートナーを目指します。

【1】事業の拡大

1. 既存事業の深化
2. 事業領域の拡大

【2】経営基盤の強化

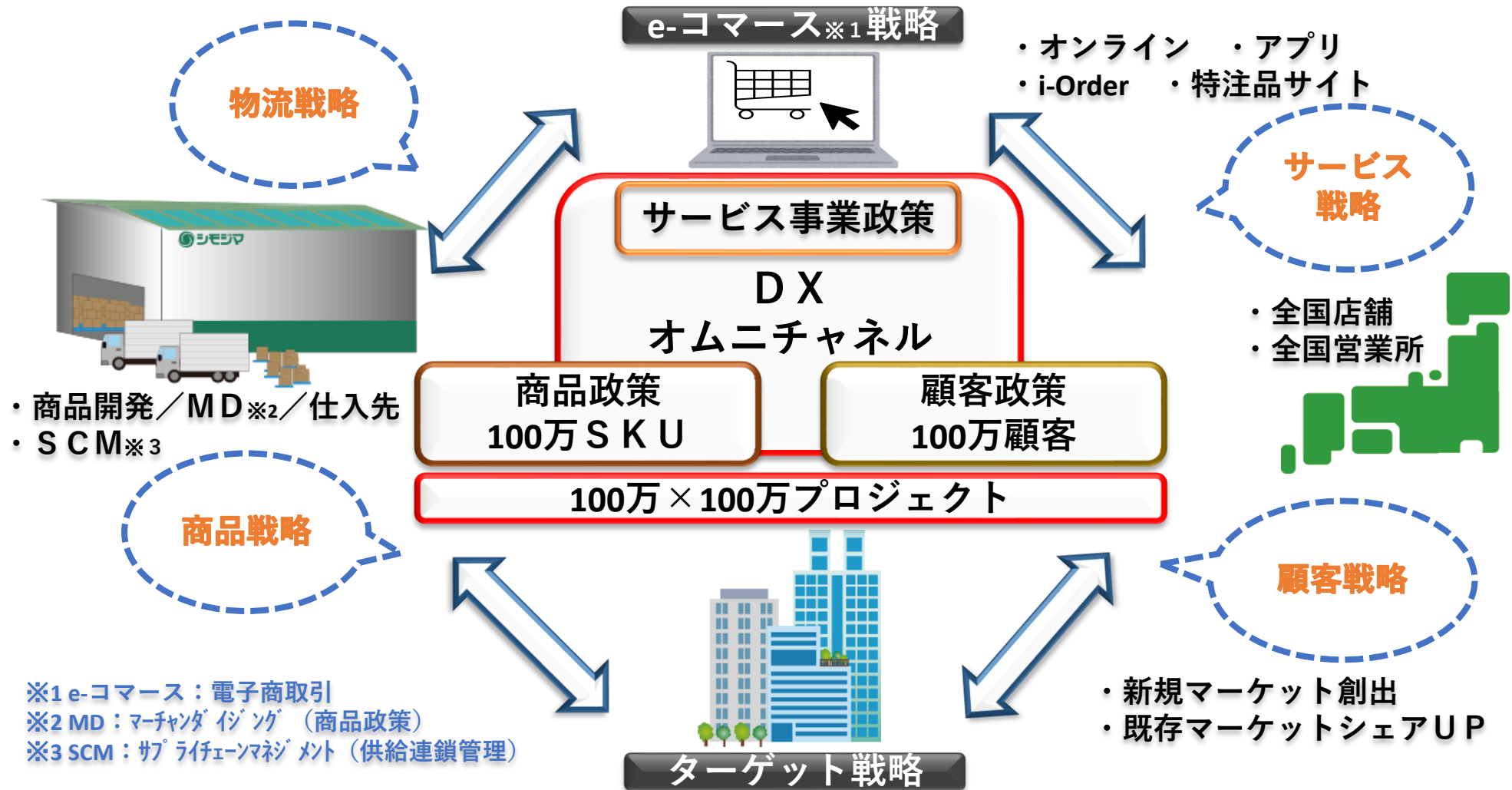
1. グループ連携の強化
2. IT基盤の強化とデジタル化の推進
3. 物流体制の強化
4. 人財力のアップ

【3】経営体制の強化

1. コーポレートガバナンス体制の強化
2. CSRの推進
3. ESGの取り組み強化
4. SDGsの取り組み強化
5. 環境経営の推進

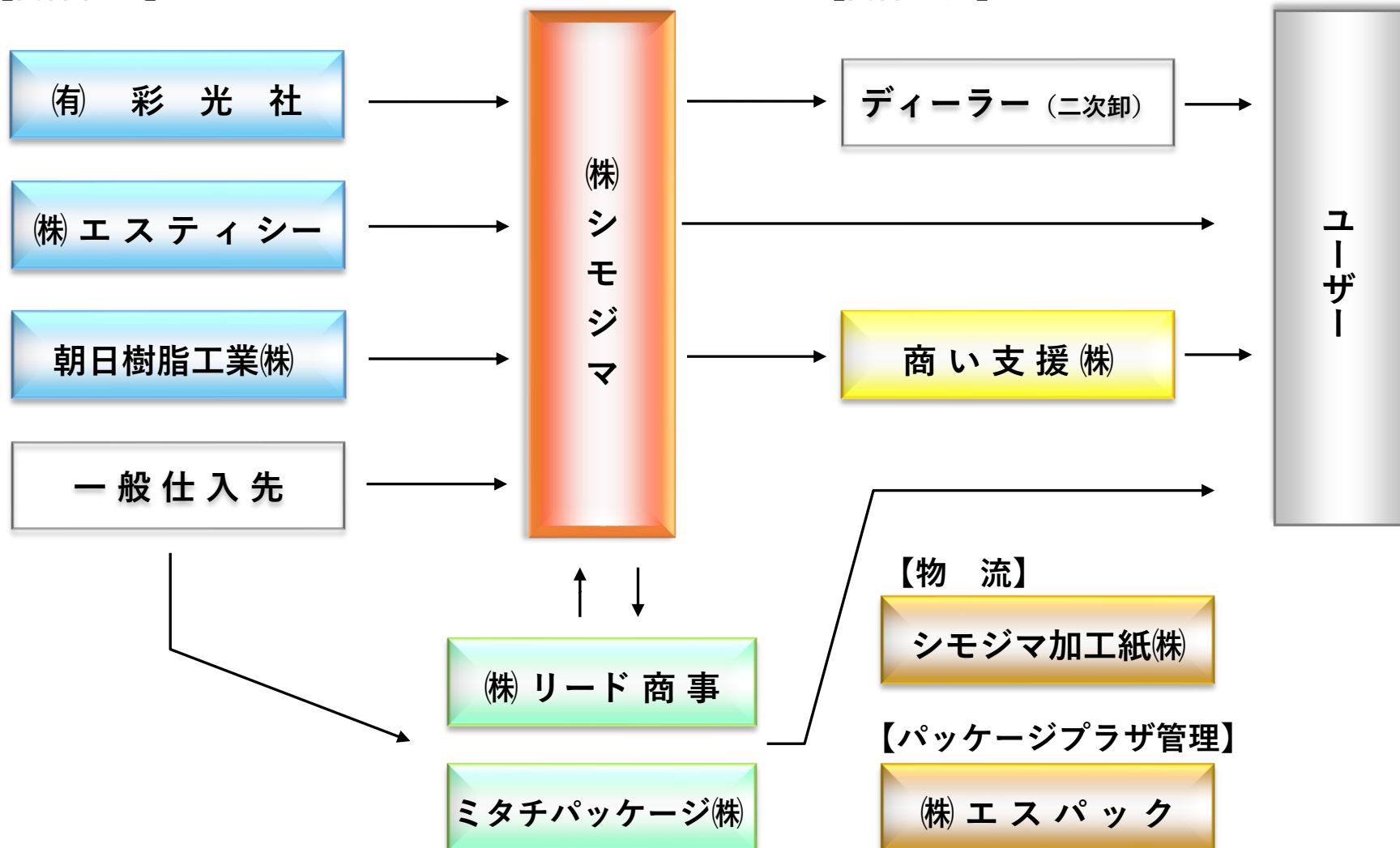
4.【1】事業の拡大 シモジマ型オムニチャネル政策の拡大

シモジマの武器である**多様な販売チャネル**（全国に展開する営業、店舗とECサイト）、**商品企画力**、**多数の商品仕入先**、**物流拠点**を最大限に活用し、それぞれのお客様に最適なご購入環境を整え、最良な商品のご提案を推進



【商品仕入】

【商品販売】



5.【2】経営基盤の強化 グループ企業との協業

多彩なグループ企業との協業によってシナジー効果を発揮し続けてまいります。



(株)リード商事

花材得意先・商品で協業



(株)エスパック

パッケージプラザで協業



シモジマ加工紙(株)

物流面で協業



(有)彩光社

ラベル・シール販売で協業



ミタチパッケージ(株)

工業・工場資材で協業



朝日樹脂工業(株)

化成品販売で協業

6.【3】経営体制の強化 SDGs 持続可能な社会に向けて

シモジマは、環境負荷低減のため会社を挙げてこれからも取り組んでまいります。

消費電力の抑制

シモジマ本社、一部店舗で照明のLED化を実施しました。今後も省電力に取り組んでまいります。



我々シモジマは、環境問題に前向きに取り組み地球環境にやさしい商品をお客様にご提案いたします。

環境配慮型商品の開発と販売

木製カトラリー

木製のスプーン、フォーク、ナイフ
使い捨てカトラリーの脱プラ化により
人気となっている木製カトラリーです。



フードトレイ

クラフト素材の紙製トレー
スーパーなどの陳列に！
品の良い見た目のエコトレー。



ドリンクカップ

直接飲めるストローレスカップ
ストローのいらない紙製バタフライカップ。



環境に優しいオススメ容器素材

植物由来素材	環境負荷低減の複合素材	紙パウダーが主原料	植物由来素材
バイオマス	タルファー	マプカ	コーンスターチ
サステナブル社会をめざした植物由来素材の一部を使用した製品。バイオデリカは、石油由来のPPFにサトウキビなどからできたプラスチックを配合した、バイオPPF素材です。 ※PPF=ポリプロピレン+無機物	タルファーとは、天然資源素材タルクにポリオレフィン樹脂を50%未満含有した環境負荷低減の複合素材。「タルク」の含有量増加で発生する脆性を克服した新素材です。プラスチック使用量50%OFFで環境負担を半分にすることが可能です。	主原料は紙パウダーを含有したエコ素材で石化資源を半減できるだけではなく、燃えるごみ・燃やすゴミとして廃棄が可能です。一般汎用プラスチック(ポリプロピレン)と比べ温室効果ガスの排出量を約35%削減することも可能。	コーンスターチパックはとうもろこし由来のコーンスターチが50%以上の主原料とされているため、燃えるごみとして廃棄が可能な環境対応商品です。お米などの食品がくっつきにくい素材で電子レンジ使用もOKです。
●バイオデリカシェルボックス	●アールドン ●ダイナー	●MPK街デリBOX	●コーンスターチパック

ご質問



これよりご質問をお受けいたします。
お名前と会社名をお申し出の上、
1問ずつお願い申し上げます。

2021年11月5日
株式会社シモジマ